第１期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

一橋大学

平成２３年５月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

（Ⅰ）教育に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）　「教育に関する目標」に係る中期目標（４項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

（参考）

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）　「教育に関する目標」に係る中期目標（４項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

２．各中期目標の達成状況

①　教育の成果に関する目標

【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）　平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（８項目）のうち、１項目が「良好」、７項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、１項目が「良好」、７項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○　中期計画「実務・政策研究に基づく新しい社会科学の教育カリキュラムを作成し、国際的に通用する問題解決型の高度専門職業人の育成に努める」について、経済学研究科、法学研究科、国際企業戦略研究科、社会学研究科において、それぞれ大学院教育改革プログラムや専門職大学院等教育推進プログラムの採択を得て、国際的に通用する高度専門職業人・研究者教育の育成に努めていることは、優れていると判断される。

○　中期計画「実務・政策研究に基づく新しい社会科学の教育カリキュラムを作成し、国際的に通用する問題解決型の高度専門職業人の育成に努める」について、法学研究科法務専攻における司法試験の合格率（対入学定員）が毎年度上昇しており、平成 20、21 年度においては連続して合格率が全国第１位であることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期計画「複合領域・学際領域での４大学連合（一橋大学、東京工業大学、東京医科歯科大学、東京外国語大学）における教育連携をいっそう推進する」について、東京医科歯科大学との大学院修士課程の設置、出張授業や、東京工業大学から５名の学生受入れ等が実施され、さらに複合領域コースの改善に向けて検討が進められていることは、大学連携の教育的効果が期待される点で、特色ある取組であると判断される。

○　中期計画「実務・政策研究に基づく新しい社会科学の教育カリキュラムを作成し、国際的に通用する問題解決型の高度専門職業人の育成に努める」について、社会学研究科を中心にキャリアデザインプログラムを引き続き実施し、高度職業人養成科目や講習会を開講しており、平成 21 年度に当該研究科の学生の５割以上が高度職業人養成科目を受講し、８割以上がキャリアデザイン講習会に参加していることは、特色ある取組であると判断される。

②　教育内容等に関する目標

【評価結果】	**中期目標の達成状況がおおむね良好である**
（判断理由）	平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（11 項目）のうち、1 項目が「非常に優れている」、10 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。 平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「非常に優れている」、10 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○　中期計画「平成 16 年度に紛争解決学プログラムを設置する」について、社会学研究科と法学研究科の共同教育研究拠点形成プロジェクトが、平成 16 年度の 21 世紀 COE プログラムに採択され、これに基づき特定紛争地域及び平和研究をテーマにした国際シンポジウム等の開催や、関連する授業科目を開設しており、これらの実績を基に平成 19 年度に「平和と和解の研究センター」を設置し、紛争解決学に関する独自の教育プログラムを推進していることは、優れていると判断される。

③　教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】	**中期目標の達成状況がおおむね良好である**
（判断理由）	平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の

下に定められている具体的な目標（９項目）のうち、１項目が「良好」、８項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、１項目が「良好」、８項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

④　学生への支援に関する目標

【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）　平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（８項目）のうち、１項目が「非常に優れている」、１項目が「良好」、６項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、１項目が「非常に優れている」、１項目が「良好」、６項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（特色ある点）

○　中期目標「留学生に対する支援システムを整備する」について、留学生センターにおいて、『留学生ハンドブック』の発行やウェブサイトでの詳細な留学情報の提供等きめ細かな留学生に対する支援体制を整備するとともに、日本語や学習を手助けする一般チューターや論文作成を支援する論文チューター等、チューター制度を充実させていることは、特色ある取組であると判断される。

（Ⅱ）研究に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）　「研究に関する目標」に係る中期目標（２項目）のうち、１項目が「良好」、１項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

（参考）

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）　「研究に関する目標」に係る中期目標（２項目）のうち、１項目が「良好」、１項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

２．各中期目標の達成状況

①　研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】　中期目標の達成状況が良好である

（判断理由）　平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（８項目）のうち、１項目が「非常に優れている」、４項目が「良好」、３項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、１項目が「非常に優れている」、４項目が「良好」、３項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○　中期目標「21 世紀の社会実現に即した新しい社会科学の創造をめざし、先端的で高度な研究成果をあげる」について、学長の諮問に基づいて、研究の将来の方向性等について審議する「研究カウンシル」を設置し、研究水準・成果の向上を目指して検討を行い、また、グローバル COE プログラム、科学研究費補助金等の競争的資金の獲得に向けて、研究環境の整備、グローバルネットワークの構築を推進していることは、先端的で高度な研究成果を着実に上げており、その成果を社会に広く情報発信して新しい社会科学の創造に向けた積極的な取組がなされている点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期計画で「平成 16 年度から重要な基礎的研究、画期的な萌芽的研究や学際的研究、公共性の高い共同研究などを大学プロジェクトとして認定し、支援を行う」としていることについて、学内予算の活用による研究助成の奨励策を積極的に講じ、また、国際共同研究センターにおけるオープン・ラボ形式の研究プロジェクトにおいて、一橋大学内外から研究者を公募していることは、特色ある取組と判断される。

②　研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）　平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（５項目）の達成状況について、２

項目が「良好」、３項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。
　平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、２項目が「良好」、３項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○　中期計画「財源としてはCOEや他の委任経理など、競争的な外部資金の獲得を目指す」について、「一橋大学基金」において活発な募金活動を行っているほか、競争的研究資金等に積極的に応募するなどして、科学研究費補助金、COE プログラム、共同研究・受託研究による収入について実績を上げており、特に科学研究費補助金の採択率が４年連続で全国１位であることは、優れていると判断される。

○　中期計画「国際共同研究センター、経済研究所、附属図書館、社会科学古典資料センター、及び各研究科の共同研究組織などを活用し、独自に開発したデータベースや創生的ディシプリンを基盤として、全国共同研究の中核となる」について、経済研究所は、平成 21 年６月に共同利用・共同研究拠点となることが認定されているほか、平成 20 年度に採択されているグローバル COE プログラムを活用し、経済制度研究センターで各種データベースを作成・公開して共同研究の中核的拠点を形成していることは、優れていると判断される。

（顕著な変化が認められる点）

○　中期計画「国際共同研究センター、経済研究所、附属図書館、社会科学古典資料センター、及び各研究科の共同研究組織などを活用し、独自に開発したデータベースや創生的ディシプリンを基盤として、全国共同研究の中核となる」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、「良好」となった。（「優れた点」参照）

（Ⅲ）その他の目標

（１）社会との連携、国際交流等に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）　「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（１項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

（参考）

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】　中期目標の達成状況が<u>おおむね良好</u>である

（判断理由）　「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（１項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

２．各中期目標の達成状況

①　社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】　中期目標の達成状況が<u>おおむね良好</u>である

（判断理由）　平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（13 項目）のうち、１項目が「非常に優れている」、２項目が「良好」、10 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、１項目が「非常に優れている」、２項目が「良好」、10 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○　中期目標「地域社会、産官、国内外機関などに対し、専門的知識による助言などを行う」について、官公庁の審議会、委員会、海外国際機関等に多くの教員が参加し、専門的知識を活かした助言活動等を積極的に行うことで、大学の持つ知的資産を社会に還元し、大学に期待された社会貢献の役割を十分に果たしていることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期計画「平成 16 年度からの海外のいくつかの主要都市に拠点を設け、とくに重要な大学や研究機関、産業界、現地同窓会（如水会）、留学生同窓会との連携を深め、グローバルな情報・人的ネットワークの要とする」について、平成 16 年に開設した一橋大学北京事務所が、中国における研究・教育、学生支援の海外拠点として機能していることは、留学生交流、海外大学等との学術・教育交流推進に大きな役割を果たすことが期待される点で、特色ある取組であると判断される。